

厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
分担研究報告書

研究課題：地域医療構想を見据えた救急医療提供体制の構築に関する研究

研究項目：ドクターカーの類型と、効率的・効果的な運用に関する研究

研究分担者 高山 隼人 長崎大学病院地域医療支援センター 副センター長
野田 龍也 奈良県立医科大学公衆衛生学講座 准教授

研究要旨

【研究目的】

全国的にドクターカーの運用が増加傾向にあるが、ドクターカーの搭載資器材等については統一された基準がない。本研究では、前年度までの研究を受け、病院車運用方式ドクターカー（自施設の車両に医師が乗車。救急車型、乗用車型がある。）の搭載資器材を分析し、その定義づけを行うことを目的とする。

【研究方法】

全国の救命救急センター117ヶ所にドクターカー運用の実態調査を行い、搭載している資器材に関して分析した（2018年2月、自記式郵送調査法）。ドクターカーの出動頻度により、回答施設を「年間運用件数の多寡による施設分類」と「週あたりの運用件数」の2つの方法で分類した。さらに、資器材の搭載頻度を、「車内常置」5点、「持ち込み」3点、「原則搭載せず」1点でスコア化し、資器材を搭載必須（スコア上位1/5）、搭載推奨（上位1/5から1/2まで）、任意搭載（下位1/2）の3つに分類した（分類は前述の出動頻度による分類ごとに行った）。

さらに、搭載頻度スコアとは別に、「車内常置または持ち込み」が多い資器材を乗用車型及び救急車型ごとに検討した（高頻度搭載資器材）。具体的には、A) 年間運用件数四分位の最上位カテゴリの施設において「車内常置または持ち込み」が90%以上の資器材（＝ドクターカーが頻繁に運用されている施設ではほぼ搭載されている資器材）、B) 年間運用件数四分位の最上位カテゴリの施設において「車内常置または持ち込み」が80%以上の資器材（＝ドクターカーが頻繁に運用されている施設ではおおむね搭載されている資器材）、C) 年間運用件数週3回以上のカテゴリの施設において「車内常置または持ち込み」が90%以上の資器材（＝ドクターカーが週3回以上運用されている施設ではほぼ搭載されている資器材）の3つの基準で高頻度に搭載されている資器材を特定した。

搭載頻度スコア及び高頻度搭載資器材の結果を用いて、「病院車運用方式のドクターカーに搭載すべき資器材」（第一基準資器材）と、「救急車型ドクターカーに搭載を推奨する資器材（救急車型第二基準資器材）」及び「乗用車型ドクターカーに搭載を推奨する資器材（乗用車型第二基準資器材）」を決定した。

【研究結果】

第一基準資器材として、心電図計、血圧測定装置、血中酸素飽和度測定器、除細動器（ペーシング機能有＋無の合算）、超音波診断装置、気道確保資器材、マギール鉗子、創傷保護用資器材、無線装置、懐中電灯、トリアージタグ、血糖測定器、骨髄針、メス、ペアン、鑷子が選定された。

救急車型第二基準資器材では、呼気二酸化炭素測定装置、除細動器（ペーシング機能付き）、人工呼吸器、吸引器、ビデオ硬性挿管用喉頭鏡、酸素投与資器材、固定用資器材、スクープストレッチャー、バックボード、保温用毛布、冷却用資器材、胸腔ドレーン、開胸器で、乗用車型第二基準資器材では、呼気二酸化炭素測定装置、除細動器（ペーシング機能付き）、除細動器（ペーシング機能なし（AEDを含む））、自動心マッサージ器、吸引器、ビデオ硬性挿管用喉頭鏡、酸素投与資器材、固定用資器材、胸腔ドレーン、開胸器が選定された。

【考察】

病院車運用方式ドクターカーにおいて、2018年時点で搭載されている資器材を分析した。搭載頻度スコアと高頻度搭載資器材の2通りの分析を組み合わせることで、選定に漏れがないよう留意した。第一基準資器材に関しては、現場活動を考えると妥当な選定となった。第二基準資器材として救急車型と乗用車型を抽出したが、救急車型ではスペースや患者収容も含めて搭載資器材が増える傾向があり、乗用車型には現場活動に重点を置いた資器材が搭載される傾向があった。

救急車型と乗用车型的両方で第二基準資器材に選定された、呼気二酸化炭素測定装置、除細動器（ペーシング機能付き）、吸引器、ビデオ硬性挿管用喉頭鏡、酸素投与資器材、固定用資器材、胸腔ドレーン、開胸器に関しては、現状では搭載していない施設はあるものの、病院車運用方式ドクターカーに搭載必須の資器材（第一基準資器材）として採用して良いのではないかと考えられた。

【結論】

全国の救命救急センターにてドクターカーを運用する施設を対象に、ドクターカーの搭載資器材を調査分析した。病院車運用方式ドクターカーの搭載資器材として、搭載必須の第一基準資器材と、搭載推奨の第二基準資器材（車両別に選定）を選定した。本分担研究では、それらの資器材の搭載を病院者運用方式ドクターカーの必要要件とすることを提案する。

A. 研究目的

全国的にドクターカーの運用が増加傾向にあるが、ドクターカーの搭載資器材等については統一された基準がなく、各施設が独自に準備しており、実態が不明である。

これまでに、本分担研究班では、ドクターカーを「診療を行う医師を派遣するための緊急走行が可能な車両」と定義し、昨年度までに以下の研究を行ってきた。

1. 全国の救急救命センターを対象に、ドクターカーの運用実態についての調査を行った。
2. ドクターカーを、病院車運用方式（自施設の車両に医師が乗車）、ピックアップ方式（救急隊の救急車が医師をピックアップ）、ワークステーション方式（自施設内に救急隊の救急車が待機）の3つに分類した。
3. 病院車運用方式ドクターカーを救急車型と乗用車型に分けて検討すべきことを明らかにした。
4. 各運用様式のドクターカーについて、同乗する医療職や各種スタッフ、運用時間帯、搭載資器材などについて粗集計を明らかにした。

上記を踏まえ、病院車運用方式ドクターカーの定義づけが今年度の課題として残った。

上記4の粗集計により、病院車運用方式ドクターカーの定義づけに影響を及ぼす因子として、搭載資器材との関連が強いと考えられる一方、地理的特性（都市部・郊外部）、走行距離、搭乗医師数、救急車の年間受け入れ数の違いは、ドクターカーの運用状況（出動頻度）との相関が小さいことが分かっている。

本研究は、全国の救命救急センターで運用されている病院者運用方式ドクターカーを対象とし、ドクターカーの搭載資器材を車種ごとに分析し、「データに基づく病院車運用方式のドクターカーの定義づけ」を行い、ドクターカー施策立案の基本資料を提供することを目的としている。

B. 研究方法

全国の救命救急センター117ヶ所を対象に行ったドクターカー運用の実態調査（2018年2月。自記式郵送調査法）の結果を分析した。集計には、Microsoft Office Excel 2010及びJMP® 11 (SAS Institute Inc.)を使用した。また、ドクターカー車両の車種を回答していない施設は今回分析からは除外した。

なお、調査対象とした資器材は、消防庁の救急業務実施基準で定められた資器材を含む35資器材から選定した。

・ ドクターカーの出動頻度での分類

病院車運用方式を2つの車種（救急車型、乗用車型）に分け、ドクターカーの出動頻度に関する以下

の2つの方式で調査対象施設をカテゴリ化した：

- 年間運用件数の多寡による施設分類
ドクターカーの年間運用件数に基づき、調査対象施設を5つのカテゴリ（年間運用件数0件＋年間運用件数1件以上の施設について、年間運用件数の四分位）に分ける。ノンパラメトリックな分布であったため、四分位によるカテゴリ化を採用する。

- 週あたりの運用件数による施設分類
週あたりのドクターカー運用件数に基づき、調査対象施設を6つのカテゴリ（週1回未満・以上、週2回未満・以上、週3回未満・以上）に分ける。

- ・ 資器材の搭載頻度をスコア化
上記の2分類のそれぞれにおいて、ドクターカーに搭載された資器材に対して「車内常置」を5点、「持ち込み」を3点、「原則搭載せず」を1点とし、該当する施設数を乗じたスコアを算出した。このスコアは、ドクターカーにおける資器材の搭載必要性を、搭載頻度と施設数により重み付けしたものである。

- ・ 搭載頻度スコア
資器材をスコアの高い順に並び替え、車種（救急車型・乗用車型）×集計方法（上記2分類）の4通りについて、デルファイ法を用いて、搭載必須（スコア上位1/5）、搭載推奨（上位1/5から1/2まで）、任意搭載（下位1/2）の3つのグレードに分類し、下記の「イ」～「ヲ」グループに分類した。

- 救急車型の四分位での優先度
→（イ：搭載必須、ロ：推奨、ハ：任意）
- 救急车型的週頻度での優先度
→（ニ：搭載必須、ホ：推奨、ヘ：任意）
- 乗用车型的四分位での優先度
→（ト：搭載必須、チ：推奨、リ：任意）
- 乗用车型的週頻度での優先度
→（ヌ：搭載必須、ル：推奨、ヲ：任意）

- ・ 高頻度搭載資器材
年間運用件数や週あたりの運用回数が多いドクターカーにおいて、「車内常置または持ち込み」されていることが多い資器材を以下の3通りの基準で特定した。

- A) 年間運用件数四分位の最上位カテゴリの施設において「車内常置または持ち込み」が90%以上の資器材
- B) 年間運用件数四分位の最上位カテゴリの施設において「車内常置または持ち込み」が80%以上の資器材
- C) 年間運用件数週3回以上のカテゴリの施設において「車内常置または持ち込み」が90%

以上の資器材

- ・ 第一基準資器材及び第二基準資器材の決定
以下の条件により、病院者運用方式のドクターカーに搭載されることが望ましい資器材を決定した。
- ・ 第一基準資器材 (病院車運用方式のドクターカーに搭載すべき資器材)
(イ)、(ニ)、(ト)、(ヌ)、「B)またはC)」の5条件すべてを満たす資器材
- ・ 救急車型第二基準資器材 (救急車型ドクターカーに搭載を推奨する資器材)
救急車型で、(イ)、(ロ)、(ニ)、(ホ)、「A)またはB)またはC)」の5条件のいずれかに該当する資器材
- ・ 乗用車型第二基準資器材 (乗用車型ドクターカーに搭載を推奨する資器材)
乗用車型で、(ト)、(チ)、(ヌ)、(ル)、「A)またはB)またはC)」の5条件のいずれかに該当する資器材

(方法のまとめ)

- ・ 病院車運用方式ドクターカーを2つの車種 (救急車型、乗用車型) ごと、出動頻度に関する2つの方式ごとに区分した (2×2=4区分)。
- ・ 資器材の搭載頻度をスコア化し、スコアに応じて搭載必須、搭載推奨、任意搭載の3つのグレードに分類した。この分類を4区分ごとに行った。(搭載頻度スコア)
- ・ 頻回に運用されているドクターカーにおいて、「車内常置または持ち込み」されていることが多い資器材を特定した。(高頻度搭載資器材)
- ・ 病院者運用方式のドクターカーに搭載されることが望ましい資器材を決定するため、搭載頻度スコア及び高頻度搭載資器材を組み合わせる方法を開発した。

(倫理面への配慮)

本研究では、個人情報や動物愛護に関わる調査・実験を行わない。既存のデータの利用にあたって、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守する。

C. 研究結果

- 1) ドクターカーの出動頻度での分類
 - 年間運用件数の多寡による施設分類
図1の②、③を参照
 - 週あたりの運用件数による施設分類
図1の④、⑤を参照

2) 搭載頻度スコア

- 救急車型の四分位での優先度 (表1)
最高スコアは245で、除細動器 (ペースングの有無を問わず)、心電図計、酸素投与資器材、血圧測定装置、血中酸素飽和度測定器、吸引器、除細動器 (ペースング機能付き)、固定用資器材、保温用毛布であった。これ以外の必須は表1の通りである。推奨は、胸腔ドレーン、開胸器、ビデオ硬性挿管用喉頭鏡、冷却用資器材、スクープストレッチャーであった。
- 救急車型の週頻度での優先度 (表2)

最高スコアは500で、除細動器 (ペースングの有無を問わず)、心電図計、酸素投与資器材、血圧測定装置、血中酸素飽和度測定器、吸引器、除細動器 (ペースング機能付き)、固定用資器材、保温用毛布であった。これ以外の必須は、表2通りである。推奨は、開胸器、ビデオ硬性挿管用喉頭鏡、冷却用資器材、スクープストレッチャーであった。

■ 乗用車型の四分位での優先度 (表3)

最高スコアは245で、胸腔ドレーン、鑷子、創傷保護用資器材、ペアン、メス、無線装置、開胸器であった。これ以外の必須は表3の通りである。推奨は、吸引器、除細動器 (ペースング機能なし (AED含む))、呼気二酸化炭素測定器具、除細動器 (ペースング機能付き) 固定用資器材、自動心マッサージ器であった。

■ 乗用車型の週頻度での優先度 (表4)

最高スコアは1275で、胸腔ドレーンであった。これ以外の必須は表4の通りである。推奨は、酸素投与資器材、ビデオ硬性挿管用喉頭鏡、開胸器、除細動器 (ペースング機能なし (AEDを含む))、固定用資器材、吸引器、呼気二酸化炭素測定器具、除細動器 (ペースング機能付き) であった。

3) 高頻度搭載資器材 (表5)

救急車型や乗用車型で基準A)B)C)のいずれにも当てはまらない資器材は、除細動器 (ペースング機能なし (AEDを含む))、自動心マッサージ器、分娩用資器材、スクープストレッチャー、担架、冷却用資器材、ショックパンツ、心肺蘇生用背板であった。

4) 第一基準資器材と第二基準資器材 (表6)

第一基準資器材

心電図計、血圧測定装置、血中酸素飽和度測定器、除細動器 (ペースング機能有+無 合算)、超音波診断装置、気道確保資器材、マギール鉗子、創傷保護用資器材、無線装置、懐中電灯、トリアージタグ、血糖測定器、骨髄針、メス、ペアン、鑷子であった。

第二基準資器材 (救急車型・乗用車型)

救急車型では、呼気二酸化炭素測定器具、除細動器 (ペースング機能付き)、人工呼吸器、吸引器、ビデオ硬性挿管用喉頭鏡、酸素投与資器材、固定用資器材、スクープストレッチャー、バックボード、保温用毛布、冷却用資器材、胸腔ドレーン、開胸器であった。

乗用車型では、呼気二酸化炭素測定装置、除細動器 (ペースング機能付き)、除細動器 (ペースング機能なし (AEDを含む))、自動心マッサージ器、吸引器、ビデオ硬性挿管用喉頭鏡、酸素投与資器材、固定用資器材、胸腔ドレーン、開胸器であった。

D. 考察

ドクターカーの運用は全国で行われているが、搭載資器材に関しての標準化は行われておらず、個々

の施設が、ACLS™、JATEC™やJPTEC™の活動に必要な資器材を検討して搭載している。消防機関の高規格救急車に標準的に搭載されている資器材との違いも含め検討するために、35資器材を選定した。

救急車型・乗用車型ともに、2018年時点で高頻度に運用されているドクターカーにおいて高頻度に搭載されている資器材を重み付けして分析し、第一基準資器材を抽出した。第一基準資器材に関しては、現場活動を考えると妥当な資器材と考える。

第二基準資器材として救急車型と乗用車型を抽出したが、救急車型にはスペースや患者収容も含めて搭載可能な資器材が増える傾向があり、乗用車型には現場活動に重点を置いた資器材が選択される傾向があった。救急車型と乗用車型の両方に上がっている呼気二酸化炭素測定装置、除細動器（ペーシング機能付き）、吸引器、ビデオ硬性挿管用喉頭鏡、酸素投与資器材、固定用資器材、胸腔ドレーン、開胸器に関しては、ドクターカーに搭載必須の資器材としても良いのではと考える。

研究の限界として、救命救急センターのみを対象とした調査のため二次救急医療機関が運用するドクターカーの状況が反映できていないこと、消防庁の救急業務実施基準で定められた資器材を含む35資器材のみの分析であることがあげられる。そのため、臨床上・運用上の観点または医療技術や通信技術の変化の観点から搭載資器材を追加することを否定するものではない。たとえば、二次救命処置に用いる機器・薬剤や、遠隔地への出動に備えた通信機器やGPS（全地球測位システム）機能を有する機器を搭載資器材の基準に加える可能性を排除するものではない。

本分担研究としては、病院車運用方式ドクターカーの搭載資器材として第一基準資器材を搭載すること、ならびに、車両のタイプごとに第二基準資器材を追加搭載することを提案する。基準となる資器材は、臨床上・運用上の観点から、今後も適切に追加・削除されることが望ましい。

E. 結論

全国の救命救急センターにてドクターカーを運用する施設よりドクターカーの搭載資器材を調査した。その分析から、病院車運用方式ドクターカーの搭載資器材として第一基準資器材を搭載すること、ならびに、車両のタイプごとに第二基準資器材を追加搭載することを提案する。

F. 健康危険情報

なし（非該当）

（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

G. 研究発表

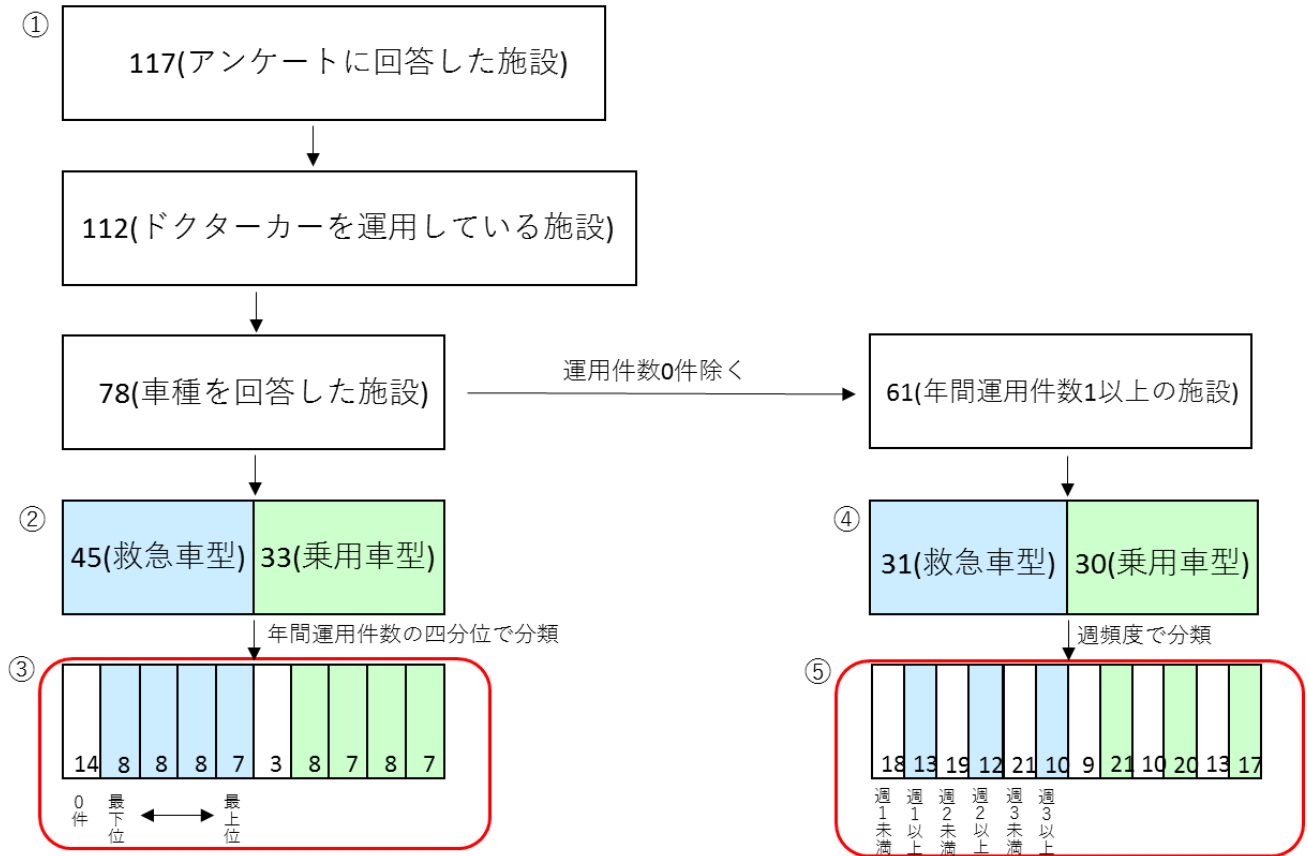
1. 論文発表
なし

2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

図1 調査・分析の流れ



※枠内の数字は施設数

表1 救急車型の四分位での優先度

	救急車型	四分位最上位の施設			
		車内常置	持ち込み	原則搭載せず	スコア
イ	資器材名				
	除細動器(ペースング機能付き+ペースング機能なし)	7	0	0	245
	心電図計	7	0	0	245
	酸素投与資器材	7	0	0	245
	血圧測定装置	7	0	0	245
	血中酸素飽和度測定器	7	0	0	245
	吸引器	7	0	0	245
	除細動器(ペースング機能付き)	7	0	0	245
	固定用資器材	7	0	0	245
	保温用毛布	7	0	0	245
	呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2測定器)	6	1	0	231
	気道確保資器材	6	1	0	231
	鑷子	5	2	0	217
	創傷保護用資器材	5	2	0	217
	ペアン	5	2	0	217
	マギール鉗子	5	2	0	217
	懐中電灯	6	0	1	217
	人工呼吸器	6	0	1	217
	バックボード	6	0	1	217
	骨髄針	5	2	0	217
超音波診断装置	5	2	0	217	
血糖測定器	5	2	0	217	
無線装置	6	0	1	217	
メス	5	1	1	203	
トリアージタグ	5	1	1	203	
ロ	胸腔ドレーン	4	2	1	189
	開胸器	4	1	2	175
	ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	5	1	0	168
	冷却用資器材	3	1	3	147
	スクープストレッチャー	3	0	4	133
ハ	心肺蘇生用背板	2	0	5	105
	担架	2	0	5	105
	自動心マッサージ器	2	0	4	84
	除細動器(ペースング機能なし(AED含む))	3	0	1	64
	分娩用資器材	0	1	6	63
	ショックパンツ	0	0	6	36

イ：上位1/5、ロ：上位1/5から1/2まで、ハ：1/2以下

表2 救急車型の週頻度での優先度

	救急車型	週3回以上の施設			
		車内常置	持ち込み	原則搭載せず	スコア
ニ	資器材名				
	除細動器(ペースング機能付き+ペースング機能なし)	10	0	0	500
	心電図計	10	0	0	500
	酸素投与資器材	10	0	0	500
	血圧測定装置	10	0	0	500
	血中酸素飽和度測定器	10	0	0	500
	吸引器	10	0	0	500
	除細動器(ペースング機能付き)	10	0	0	500
	固定用資器材	10	0	0	500
	保温用毛布	10	0	0	500
	呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2測定器)	9	1	0	480
	気道確保資器材	8	2	0	460
	鑷子	8	2	0	460
	創傷保護用資器材	8	2	0	460
	ペアン	8	2	0	460
	マギール鉗子	8	2	0	460
	懐中電灯	9	0	1	460
	人工呼吸器	9	0	1	460
	バックボード	9	0	1	460
	骨髄針	7	3	0	440
	超音波診断装置	7	3	0	440
	血糖測定器	7	3	0	440
	メス	8	1	1	440
	無線装置	8	0	2	420
トリアージタグ	7	2	1	420	
胸腔ドレーン	7	2	1	420	
ホ	開胸器	6	2	2	380
	ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	6	3	0	351
	冷却用資器材	4	2	4	300
	スクープストレッチャー	4	0	6	260
へ	心肺蘇生用背板	4	0	5	225
	担架	3	0	7	220
	自動心マッサージ器	3	1	5	207
	分娩用資器材	0	2	8	140
	ショックパンツ	0	1	8	99
	除細動器(ペースング機能なし(AED含む))	3	0	2	85

ニ：上位1/5、ホ：上位1/5から1/2まで、へ：1/2以下

表3 乗用車型の四分位での優先度

	乗用車型	四分位最上位の施設			
	資器材名	車内常置	持ち込み	原則搭載せず	スコア
ト	胸腔ドレーン	7	0	0	245
	鑷子	7	0	0	245
	創傷保護用資器材	7	0	0	245
	ペアン	7	0	0	245
	メス	7	0	0	245
	無線装置	7	0	0	245
	開胸器	7	0	0	245
	気道確保資器材	6	1	0	231
	骨髄針	6	1	0	231
	超音波診断装置	6	1	0	231
	マギール鉗子	6	1	0	231
	除細動器(ペースング機能付き+ペースング機能なし)	6	1	0	231
	心電図計	6	1	0	231
	血糖測定器	5	2	0	217
	懐中電灯	6	0	1	217
	トリアージタグ	6	0	1	217
	酸素投与資器材	6	0	1	217
	血圧測定装置	5	1	1	203
	血中酸素飽和度測定器	5	1	1	203
ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	5	1	1	203	
チ	吸引器	5	0	2	189
	除細動器(ペースング機能なし(AED含む))	4	1	2	175
	呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2測定器)	4	1	2	175
	除細動器(ペースング機能付き)	3	1	3	147
	固定用資器材	3	0	4	133
	自動心マッサージ器	3	0	4	133
リ	分娩用資器材	2	0	5	105
	担架	2	0	5	105
	人工呼吸器	1	0	6	77
	バックボード	1	0	6	77
	冷却用資器材	0	0	7	49
	ショックパンツ	0	0	7	49
	心肺蘇生用背板	0	0	7	49
	スクープストレッチャー	0	0	7	49
保温用毛布	0	0	7	49	

ト：上位1/5、チ：上位1/5から1/2まで、リ：1/2以下

表4 乗用車型の週頻度での優先度

	乗用車型	週3回以上の施設			
		資器材名	車内常置	持ち込み	原則搭載せず
ヌ	胸腔ドレーン	12	5	0	1275
	鑷子	11	6	0	1241
	創傷保護用資器材	11	6	0	1241
	ペアン	11	6	0	1241
	メス	11	6	0	1241
	気道確保資器材	10	7	0	1207
	骨髄針	10	7	0	1207
	超音波診断装置	10	7	0	1207
	マギール鉗子	10	6	1	1173
	血糖測定器	9	8	0	1173
	除細動器(ペースング機能付き+ペースング機能なし)	11	3	3	1139
	心電図計	10	4	3	1105
	懐中電灯	12	0	5	1105
	血圧測定装置	9	5	3	1071
	血中酸素飽和度測定器	9	5	3	1071
	無線装置	11	0	6	1037
	トリアージタグ	9	4	4	1037
ル	酸素投与資器材	8	4	5	969
	ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	7	6	4	969
	開胸器	8	3	5	864
	除細動器(ペースング機能なし(AED含む))	7	2	8	833
	固定用資器材	7	1	9	799
	吸引器	6	2	9	765
	呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2測定器)	4	6	7	765
	除細動器(ペースング機能付き)	5	2	10	697
ヲ	自動心マッサージ器	3	0	14	493
	分娩用資器材	2	1	14	459
	担架	2	0	15	425
	人工呼吸器	2	0	15	425
	バックボード	1	0	16	357
	冷却用資器材	0	1	16	323
	ショックパンツ	0	0	17	289
	心肺蘇生用背板	0	0	17	289
	スクープストレッチャー	0	0	17	289
	保温用毛布	0	0	17	289

ヌ：上位1/5、ル：上位1/5から1/2まで、ヲ：1/2以下

表5 搭載頻度別

No	資器材名	救急車型			乗用車型		
		A	B	C	A	B	C
1	心電図	○	○	○	○	○	
2	血圧測定装置	○	○	○		○	
3	血中酸素飽和度測定器	○	○	○		○	
4	呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2測定器)	○	○	○			
5	除細動器(ペースング機能有+無 合算)	○	○	○	○	○	
6	除細動器(ペースング機能付き)	○	○	○			
7	除細動器(ペースング機能なし(AED含む))						
8	人工呼吸器		○	○			
9	自動心マッサージ器						
10	超音波診断装置	○	○	○	○	○	○
11	吸引器	○	○	○			
12	気道確保資器材	○	○	○	○	○	○
13	ビデオ硬性挿管用咽頭鏡	○	○	○		○	
14	酸素投与資器材	○	○	○		○	
15	固定用資器材	○	○	○			
16	分娩用資器材						
17	マギール鉗子	○	○	○	○	○	○
18	創傷保護用資器材	○	○	○	○	○	○
19	スクープストレッチャー						
20	担架						
21	バックボード	○	○	○			
22	保温用毛布	○	○	○			
23	無線装置		○		○	○	
24	懐中電灯		○	○		○	
25	トリアージタグ		○	○		○	
26	冷却用資器材						
27	血糖測定器	○	○	○	○	○	○
28	ショックパンツ						
29	心肺蘇生用背板						
30	骨髄針	○	○	○	○	○	○
31	胸腔ドレーン		○	○	○	○	○
32	メス		○	○	○	○	○
33	ペアン	○	○	○	○	○	○
34	鑷子	○	○	○	○	○	○
35	開胸器				○	○	

- A) 年間運用件数四分位の最上位カテゴリの施設において「車内常置または持ち込み」が90%以上の資器材
- B) 年間運用件数四分位の最上位カテゴリの施設において「車内常置または持ち込み」が80%以上の資器材
- C) 年間運用件数週3回以上のカテゴリの施設において「車内常置または持ち込み」が90%以上の資器材

表6 集計結果

No	資器材名	救急車型集計					乗用車型集計					第一基準	第二基準 救急車型	第二基準 乗用車型
		イロハ	ニホヘ	A	B	C	トチリ	又ルヲ	A	B	C			
1	心電図	イ	ニ	○	○	○	ト	又	○	○		○		
2	血圧測定装置	イ	ニ	○	○	○	ト	又		○		○		
3	血中酸素飽和度測定器	イ	ニ	○	○	○	ト	又		○		○		
4	呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2測定器)	イ	ニ	○	○	○	チ	ル					○	○
5	除細動器(ペースング機能有+無 合算)	イ	ニ	○	○	○	ト	又	○	○		○		
6	除細動器(ペースング機能付き)	イ	ニ	○	○	○	チ	ル					○	○
7	除細動器(ペースング機能なし(AED含む))	ハ	ヘ				チ	ル						○
8	人工呼吸器	イ	ニ		○	○	リ	ヲ					○	
9	自動心マッサージ器	ハ	ヘ				チ	ヲ						○
10	超音波診断装置	イ	ニ	○	○	○	ト	又	○	○	○	○		
11	吸引器	イ	ニ	○	○	○	チ	ル					○	○
12	気道確保資器材	イ	ニ	○	○	○	ト	又	○	○	○	○		
13	ビデオ硬性挿管用咽頭鏡	ロ	ホ	○	○	○	ト	ル		○			○	○
14	酸素投与資器材	イ	ニ	○	○	○	ト	ル		○			○	○
15	固定用資器材	イ	ニ	○	○	○	チ	ル					○	○
16	分娩用資器材	ハ	ヘ				リ	ヲ						
17	マギール鉗子	イ	ニ	○	○	○	ト	又	○	○	○	○		
18	創傷保護用資器材	イ	ニ	○	○	○	ト	又	○	○	○	○		
19	スクープストレッチャー	ロ	ホ				リ	ヲ					○	
20	担架	ハ	ヘ				リ	ヲ						
21	バックボード	イ	ニ	○	○	○	リ	ヲ					○	
22	保温用毛布	イ	ニ	○	○	○	リ	ヲ					○	
23	無線装置	イ	ニ		○		ト	又	○	○		○		
24	懐中電灯	イ	ニ		○	○	ト	又		○		○		
25	トリアージタッグ	イ	ニ		○	○	ト	又		○		○		
26	冷却用資器材	ロ	ホ				リ	ヲ					○	
27	血糖測定器	イ	ニ	○	○	○	ト	又	○	○	○	○		
28	ショックパンツ	ハ	ヘ				リ	ヲ						
29	心肺蘇生用背板	ハ	ヘ				リ	ヲ						
30	骨髄針	イ	ニ	○	○	○	ト	又	○	○	○	○		
31	胸腔ドレーン	ロ	ホ		○	○	ト	又	○	○	○	○		○
32	メス	イ	ニ		○	○	ト	又	○	○	○	○		
33	ペアン	イ	ニ	○	○	○	ト	又	○	○	○	○		
34	鑷子	イ	ニ	○	○	○	ト	又	○	○	○	○		
35	開胸器	ロ	ホ				ト	ル	○	○			○	○